

MONTHLY MAGAZINE

1999年7月1日発行(毎月1回1日発行) 第38巻第7号(通巻458号) 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可

# KOBECCO

July '99 No.458 月刊神戸っ子7



★特集／夏の神戸ガイド

神戸まつり&グルメ・観光・ショッピングetc.

**kobe夏book'99**

〈ゲスト〉メモリアル 東山魁夷 インタビュー 木下直之  
〈連載〉エッセイ 村松友視 ショートショート 玉岡かおる

KINOSHITA



PEARL COMMUNICATION



kinoshita  
pearl

木下真珠パールサロン神戸  
〒650-0003神戸市中央区山本通1・7・7（北野坂）  
TEL 078・221・3170 FAX 078・221・9427



あなたが待ち望んでいた車が、ついにデビュー。

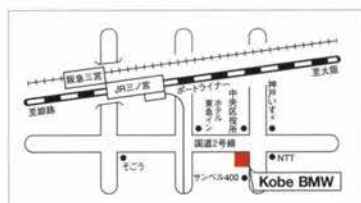
# The new 320i



**BMW ニュー320i デビュー試乗会**

**7/10(土)、7/11(日)**

**10:00~18:00**



BMW Japan.正規ディーラー  
**Kobe BMW**  
(株)モーターレン神戸

〒651-0088 神戸市中央区小野柄通5-1-20  
TEL. (078)222-4151



駆けぬける数び

涼やかに  
夏に輝く



JEWELRY タジマ

神戸市元町2丁目TEL.078 (331) 5761

—アート&クラフト'99—  
第7回 新谷琇紀



PACCO'99



しんたに ゆうき  
〈彫刻家・神戸女子大学教授〉  
神戸市中央区在住

震災後、アトリエを10回ほど  
転々とした。梱包された彫刻作品  
が「出してくれ」と叫んでいる。  
作品も私もパッケージの中から飛  
び出したいのだ。わくわくするよ  
うな、血潮が騒ぐような、そんな  
作品をこれからも創っていきたい。

“ベシティバンクかんしん”  
は「共感・対話・信頼」を企業  
理念として、地域の文化・芸術  
の育成に努めております。

この“かんしんストリートギ  
ャラリー”も芸術の香りをほの  
かに漂わせたアートのスポットと  
して、本年は「アート&クラフ  
ト'99」と題したシリーズで様々  
な作品を紹介してまいります。



生田新道に面したストリートギャラリー



kansin

ふれあいウェブ—ベシティバンク

関西西宮信用金庫

神戸市中央区下山手通2丁目12-3 〒650-0011  
PHONE (078) 332-5151 (代) Fax (078) 333-9874





KOBE EXCELLENT FASHION

神戸シャツ

おしゃれなあの人に  
素敵な夏の贈り物



撮影/米田英男

KOBE EXCELLENT SHOP

★選りすぐった一点を…

Sanohe

本店 神戸市中央区元町通2丁目5-7 TEL.331-4707  
ヌーベルサハ 神戸市中央区元町通2丁目5-11 TEL.321-1710

★神戸唯一のボルボネーゼトータルブティック

BOUTIQUE  
Omura

神戸市中央区元町通3-2-18  
ボルボ店 TEL.391-0014  
ピアノ・ドンナ店 TEL.391-4601  
(クーカイ店)

★よろず御衣縫上處

神戸シャツ

神戸市中央区三宮町3丁目1-6 TEL.331-2168



LIZA

神戸市中央区三宮町2丁目6-1 TEL.391-6806

★婦人帽子

maxim  
マキシン

神戸市中央区北長狭通2丁目6-13(トアロード)  
TEL.331-6711 全国有名百貨店婦人帽子売場

★伝わる真ごころ 最高の風格

手づくり  
お読え紳士服



創業明治16年 金 株式会社 柴田音吉商店

本店 神戸 元町本通4丁目アーケード南 TEL. 341-1161  
東京店 東京 帝国ホテル アーケード内 TEL. 3503-7973



# KOBECCO

月刊神戸っ子7月号

No.458

JULY '99

これは神戸を愛する人々の雑誌です  
あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の心の手帖です  
表紙／元永定正「ふたつとひとつ」

51

特集／夏の神戸ガイド

神戸まつり&グルメ  
観光・ショッピングetc.

kobe夏book'99

神戸まつりイベントガイド&マップ  
インタビュー／安部はるみ  
グルメ・観光・ショッピング  
ファッション・コスメティック

## memorial

8

こくさいホール緞帳開き  
東山魁夷「新生の樹」

## interview

10

台風の日には神戸にやってきました  
木下直之

## series

22

酔眼流旅日記「ノン・アルコールの酩酊」  
村松友視 絵＝灘本唯人

70

神戸25時・彼と彼女のアストロジー  
「しおまねき・恋まねき」  
玉岡かおる 絵＝高濱浩子



西田真人「輝映」

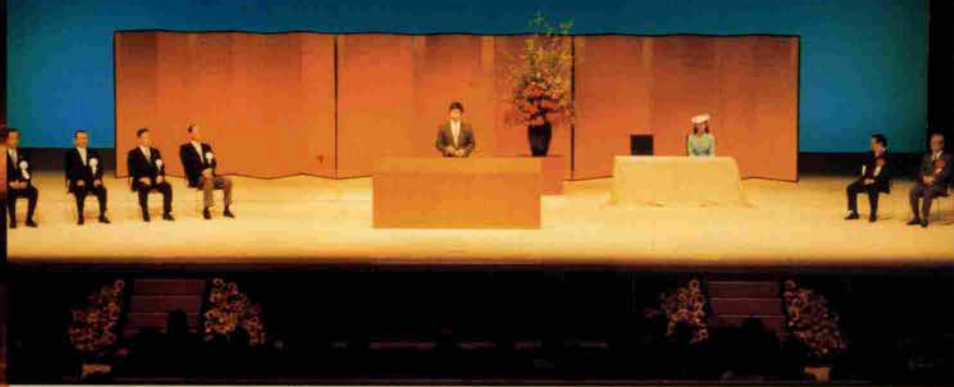
## series

- 14 神戸のお嬢さん '99フラワープリンセスひょうご パールプリンセス'99
  - 16 Reportタカラヅカ「華やかなトップスターコンビの名作舞台」
  - 18 神戸新百景「こくさいホールで華やかな舞踊を…」若柳吉全吾
  - 20 私の意見「神戸居留地返還100周年、来世紀への飛躍を…」野澤太一郎
  - 24 KOBECCO'99 小坂田淳 新井初佳
  - 26 コウベスナップ
  - 28 ある集い 兵庫県民芸協会 神戸フランス料理研究会
  - 30 竹久夢二 四つの恋のものがたり「故郷の海哀情 神戸有情」中右瑛
  - 32 世界のこんな美術館「ミュンヘン・ノイエ・ビナコテーク」伊藤誠
  - 34 亀井一成のズームインズー「じいちゃん、トキの赤ちゃんまる裸だよ！」
  - 36 はるにゃんのHYOGO WALK「但馬やまびこの郷・地域やまびこ教室」
  - 39 神戸を福祉の街に「サンフランシスコのトラウマケアに学ぶ」橋本明
  - 40 有馬歳時記「有馬温泉協会設立50周年に寄せて」鷹取嘉久
  - 42 トアロードまちづくり「NHK跡のカフェ・トアガーデンが人気」
  - 44 びっといん  
ハードロックカフェ 金寶酒家 レストラン・バトゥ 老香港酒家
  - 45 ひとの味、料理の味「うなぎ青柳」王柏林
  - 46 紀行「東洋のベニスを訪ねて／水の都とやまへの旅」
  - 48 啓介いろは歌「お父さんいろは歌」今井啓介／ヤジマンガ9907
  - 49 小関みか子のTASTYゴルフ「センチュリー三木ゴルフ倶楽部」
  - 50 おなじみプロフェッサーPの研究室 岡田淳
  - 67 神戸っ子倶楽部通信 田崎真珠 ホテルオークラ神戸
  - 68 工房ルポ「ロクレール作家の三浦啓子さんを訪ねて」福元早夫
  - 72 ポケットジャーナル
  - 75 KFSニュース／愛読者プレゼント
  - 76 イベント&チケットプレゼント「もだかる9907」
  - 78 海岸線、西へ。「河口～塔」木村光理
  - 80 海 船 港 「観光底曳網漁船・海神丸に乗って」
  - 82 北野ホットニュース ホテルグランドビスタ タックルショップスキップーズ
  - 84 神戸百店会  
アダムG オークショップ富屋 永田良介商店 メーブル不二屋
  - 86 神戸うまいもん&ドリンキング  
どじょう吾作 炭やきすてーき・しゃぶしゃぶ六段
  - 96 まちづくり座談会「長田神社を中心に発展し続ける復興のまち」  
藤原正克 五嶋靖浩 大野義保 菅一夫 佐向輝幸
- カメラ／米田定蔵 池田年夫 松原卓也 米田英男 森田篤志 シンイチ



神戸国際会館「こくさいホール」絢帳開き  
 「さあ！進もう明日に向って…」  
 東山魁夷画伯の魂が新生の樹の中に

神戸国際会館 グランドオープン記念式典



↑5月28日（金）午前11時より、神戸国際会館のグランドオープンの記念式典が“こくさいホール”（2200人収容）で高円宮殿下・妃殿下ご参列のもとに開催された

↓写真下左／彫刻家の富永直樹氏と故東山魁夷画伯の、すみ夫人

↓写真下右／富永直樹作ブロンズ像「美しき神戸へのメロデー」の前で朝比奈隆名誉館長（指揮者）



←故東山魁夷画伯が最後に故郷へ贈った絢帳「新生の樹」が美しい“こくさいホール”

↓写真下／「歓喜の森」陶板の前で新開寛山氏。写真右は貝原知事夫妻と柏井館長夫妻







# 「新生の樹」

東山魁夷

厳しい冬が去って樹々の梢に  
新しい生命が宿る。

美しい若葉の乱舞。

それは希望と歓喜に満ちている。

樹々は、いつも遅しいエネルギーを蓄  
えていて、

春になると恵みの緑をふりかけてゆく。

地上の全てのものに新しい元氣と勇氣  
を与えながら

「さあ！ 進もう。明日に向かって、し  
っかりと」

と合唱しているようだ。

新しい神戸国際会館「こくさいホー  
ル」は、震災から四年五か月の五月二  
十八日の朝、フェニックスのようによ  
みがえった。

今は亡き東山魁夷画伯が、ふるさと  
神戸を励ます最後の緞帳は「新生の樹」。  
緑の樹々の合唱がこだまして、優しく  
人々の心を包んだ。その夜は、名誉館  
長の朝比奈隆氏の指揮でシンフォニー  
が響き、文化の殿堂はここに産声をあ  
げた。待ちに待った21世紀への序曲だ。



# 台風の日に 神戸にやってきました 木下直之

〈東京大学助教授〉

少し見方を変えてみれば、私たちは不思議な“つくりもん”に囲まれている…。著書『ハリボテの町』で神戸の街を独自の目で捉えている木下直之さん。かつて兵庫県立近代美術館の学芸員として神戸に住み、現在は東京大学助教授。普段の生活で見落としがちな何か。それを探り、発信する視点をもつに至った経緯や今後の神戸のまちづくりに関しての意見をうかがった。

## ■木下直之

1954年、浜松市生まれ。東京芸術大学大学院中退後、兵庫県立近代美術館学芸員となる。1997年東京大学助教授に就任。主な著書にサントリー学芸賞受賞の『美術という見世物—油絵茶屋の時代』（1993年平凡社・1999年ちくま学芸文庫）、『ハリボテの町』（1996年朝日新聞社）『写真画論』（1996年岩波書店）など。



## おだてられて好きになりました

浜松出身の木下さんが生まれて初めて「おだてられた」のは小学生のとき、絵のコンクールで賞をとったことである。それ以後美術に関心を持つようになってしまった。いたって平凡な少年時代だったというが、「中学生の頃赤色で持ち物を統一したことがありました。赤色は女の子、ということへの反発だったかもしれない。それと、高校生のとき一年間かかとをつけずに歩いていたことがありました。サッカー部だったんですけれど、『巨人の星』に触発されて（笑）」。

描くことよりも美術について考えたと思うようになった木下さんは東京芸術大学入学後、西洋美術史を学ぶようになる。そして南蛮美術に強く興味をもつようになった。南蛮美術は日本以外にもある。十六、十七世紀、世界の港街に見られる地球規模的の異文化摂取に過ぎないこの現象も、日本美術史においては異端なものだと捉えられがちだった。視点を変えると受け止め方が全く違ってくるのが面白かった。スペインに留学したのもこの頃である。神戸に越してきた時はもうすでになかった市立の南蛮美術館だが、「何のゆかりもない神戸に惹かれたのはそのせいかもしれない」と木下さんは話す。

神戸にやってきたのは一九八〇年の秋。最初はアルバイトとして近代美術館に働いた。「引越してきたのが台風の日で……」と笑う。

## 水木しげるは神戸に住んでいた

—実際に近代美術館で働かれていかがでしたか。

「興味のあった南蛮美術とはかけ離れた美術に目を向けることになりましたね。全く未知の世界というか。自分の関心と近代美術館とのリンク、そして都市にとって美術館って一体何なのか。神戸が持つ歴史と美術館とがつながっていくことができるのだろうか。

私は近代というのは、今の社会の仕組みができあがった時代だと思っています。近代美術館は、開館した一九七〇年当時全国でも珍しくて、新鮮なものだった。けれどそこで名乗った『近代』というのは何だったんだろう。二十一世紀を迎えるにあたって、いまだその看板掲げていられるのだろうか。——自分でも企画された展示で印象に残っているものはありますか。

「就職から十年目、九十年の『日本美術の十九世紀展』は初めて自分でやりたいと思った企画展です。だからとても刺激的だった。そのほかに、『水木しげると日本の妖怪展』も思い出深い。

もともと鳥取県の境港市出身の水木しげるさんは、戦争から戻ると兵庫区の木本通に引っ越してきた。ペンネームの「水木」はそこからとっているんです。でも、そのことを知っている人は案外少ない。水本通って何の変哲もない下町なんですけれど、何でもない神戸の地名を水木しげるは自分の名字にした。そういうのってなんだかいいなあと思っ

—担当される展示すべてが自分の企画であるわけではないですよね？

「もちろんです。自分のしたいことをやることの方がずっと少ない。さまざまな制約があるなかで、どれだけ自分の意欲を伝えることができるか。へたをすれば、一人よがりですべて終わってしまう。だからこそ、自分の企画で未知の人から反応があるのはとてもうれしいですね」

## 神戸がつくった「境界線」

—神戸に関してはどんな印象をお持ちですか。

「港街神戸とはよく言われますが、港としての機能を果たしているのだから。神戸が悪いのではなく、時代が海から空へと移っていったからでしょうけれども、過去の栄光にしがみつきがちですよ。むしろ目には見えない神

戸の魅力、例えば在日外国人の暮す人間同士のつながりやコミュニティとしての活性化なんているものがあると思うんです。」

—久しぶりに神戸に戻られて：震災後の復興具合を見て、どう思われますか？

「震災の直後には、いわゆる『ディザスターユートピア』というものが出現し、メディアを通して悲劇と美談があふれた。ただ、そのユートピアは幻想でしかなかったんじゃないだろうか。『復興』という誰も反対できないスローガンも気に入らない。近代美術館の庭にまで、『復興』のモニュメントが建てられる始末です」

—そんな今の神戸になにかメッセージをお願ひできませんか。

「うーん、そんなに神戸には詳しくないしねえ……（笑）神戸はよくエキゾチックとか小粋というように表現されるけれど、それを強調することによって隠れてしまう『神戸』があるように思います。私は『越境』という言葉をよく使いますが、知らず知らずのうちに自分の周囲に作ってしまった境界線をまず一歩踏み出すことが必要じゃないかな。おしやれじゃない神戸も歩いてみたいですね」

撮影／池田年夫

構成／石塚純子（本誌）



阪神大震災チャリティー  
サマーフェスティバル

# 津軽三味線と尺八・和太鼓のアンサンブル 竹田 傑と和楽童子

津軽三味線：竹田 傑 舞……………藤原豊美  
尺八……………竹田直郎 津軽三味線：赤い陣羽織  
和太鼓……………北村敏明

# 天竺音



平成11年 7月 31日(土)

開場午後5時30分 開演午後6時

神戸文化ホール(大ホール)

神戸市中央区楠町4丁目2番2号 TEL.078-351-3535(代)

前売4000円 当日4500円(自由席)

学生割引(小・中学生) 前売2000円 当日2500円

Guest



フルート  
吉岡美恵子



ギター  
北村敏明

T.Sax Quena/石田浩正  
A.Sax/吉岡 隆  
G.T/岸本耕誌  
Bass/井上吉清  
Dr./嶋村泰宏  
P.f.Synthe.(Arrange)/黒滝忠志

音楽監督/竹田 傑  
編 曲/黒滝忠志  
音 響/サウンドワークス・大谷 企  
舞台監督/中倉敏博

演出構成/竹 得水子  
美 術/小関みか子

■後援 兵庫県 財団法人兵庫県芸術文化協会 神戸市 神戸市文化振興財団 財団法人宝塚市文化振興財団 在大阪メキシコ総領事館 読売新聞大阪本社 日本フルート協会 津軽三味線全国協議会 近畿日本ツーリスト株式会社 神戸シティライオンズクラブ 神戸ファッションサエティ 植草貞夫事務所 月刊神戸っ子

■協賛 株式会社ルヴェール 服部ヒーティング工業株式会社 華道恵千会

■主催 エスティ音楽事務所 宝塚市中山五丁目1-5-2 TEL.0797-88-4139

## 前売りチケット

チケットぴあ	06-6363-9999
神戸文化ホールプレイガイド	078-351-3535
星電社プレイガイド	078-391-8171
ムチョコラソン	06-6633-3898
株式会社ルヴェール	078-811-3007
エスティ音楽事務所	0797-88-4139



# おもてなしの心で 神戸の良さをアピール



中島 龍

〔神戸地下街株式会社代表取締役専務取締役〕



さんちか夢広場

さんちかは21世紀に向けての繁栄を継続してゆくために、昨年3月にリニューアルを行ってから早1年が経過しました。この間にも消費不況が一段と深刻化し、小売業界は依然として、大変厳しい状態が続いています。そんな中、明るい話題は神戸国際会館が今春復興オープンしたことです。三宮地区にとつては誠に喜ばしく期待するところ大なるものがあります。私たちとしてはお客様から支持されるべく、常に自己研鑽を重ねることは当然のこととして、神戸国際会館やセンター街、そごう



さんちかメインエントランス

といった、隣接商業施設間の協調関係が今後ますます重要になると考えます。

もう一つの話題は、オルセー美術館展が神戸市立博物館で行われていることです。また、第29回神戸まつりが7月17日(土)〜20日(祝)の間、市内各所で開催され、今年は、神戸居留地返還100年祭の記念式典が行われるなど、神戸市内はもとより、

他都市からも大勢の方々がおいえになります。この機会を販売チャンスとだけ捉えるのではなく、おもてなしの心でお迎えし、それぞれが神戸の良さをアピールすることこそ大切ではないかと思っています。

■神戸地下街株式会社

神戸市中央区三宮町1・10・1  
TEL078・391・4024



## 神戸のお嬢さん

’99フラワープリンセスひょうご  
緑のようにさわやかに  
花のように愛らしく



兵庫県公館にて 撮影/米田英男

広川 友子さん（’99フラワープリンセスひょうご）

山科有為子さん（代表’99フラワープリンセスひょうご）

永吉 純子さん（’99フラワープリンセスひょうご）



推薦者 渡邊百合  
株式会社マキシシ 代表取締役社長

花と緑あふれる兵庫県のシンボルとして、去る四月二十九日（祝）のみどりの日に「’99フラワープリンセスひょうご最終審査会」が、加西市の「兵庫県フラワーセンター」で実施され、応募総数二一八人の中から、姫路市の山科有為子さん（二一）が代表プリンセスに、神戸市の永吉純子さん（二九）と西宮市の広川友子さん（二四）がプリンセスに選出されました。

新プリンセスは今後一年間、来春に淡路島で開かれるジャパンフローラ2000のプレイベントをはじめ、県内産花弁のPRや公式行事など「兵庫県の顔」として活躍が期待されます。



Mademoiselle de Kobe

## 神戸のお嬢さん

パールプリンセス'99

優美な輝きを放つ

真珠のように華やかに

野手るりこさん (パールプリンセス'99)

柿田 美里さん (代表パールプリンセス'99)

梅田 陽子さん (パールプリンセス'99)



神戸ポートピアホテル 撮影/米田定蔵



推薦者 植田紳爾  
宝塚歌劇団 理事長

五月十三日に神戸ポートピアホテルにてパール・フェスタ1999が開かれた。このパール・フェスタ1999の目玉でもあるパールプリンセスの審査員を引き受けて以来、嬉しく感じるのは、近年の神戸が確実に力強いあゆみを感じさせてくれることだ。会場の熱気が神戸復興の息吹を確実に感じさせてくれる。我々にとってこんなに嬉しく心強いことはない。そんなエネルギーが彼女たちにも移ったのか、今年は例年にまして候補者全員が充実しており、審査に苦しんだ結果、素敵なプリンセスたちが誕生した。

日本の真珠、神戸の力強さをこの一年で世界中にアピールしてほしいと願っている。